



国民の森林・国有林

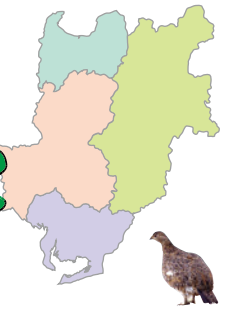
林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



平成29年度 中部森林管理局 事業概要の記者発表で挨拶する新島局長

重点取組事項を公表

(4月13日中部森林管理局) (4月14日名古屋事務所)

主な項目	○ 平成29年度中部森林管理局事業概要を公表	P2
	○ 各地からのたより	P4
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P7
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P8

平成二十九年 度 中部森林管理局事業概要を公表

四月十三日・十四日に局及び名古屋事務所において平成二十九年 度中部森林管理局の事業概要について、記者発表を行いました。

公益的機能の一層の發揮とともに、地域振興に努めることが、一番の使命との考えの下、民有林の先導となるような取組地域の安心、安全に貢献するための取組などを推進します。



名古屋事務所での記者発表

1 多様な森林への誘導

森林の持つ「公益的機能の一層の發揮」と「多様な樹材種の供給源」としての国有林の役割を果たすため、様々な生

育段階や樹種で構成される針広混交林等の多様な森林へ誘導する森林施業を推進します。



多様な森林の風景

平成二十九年 度は具体的に、

○各作業（地拵え、植栽、下刈、除伐、間伐、主伐）において、高木性有用樹の保残や天然生稚幼樹の育成に取り組みます。

○山をよく見、山とよく相談しながら、山に応じた森林施業を行います。

2 コスト縮減の推進と成果の水平展開
林業の成長産業化の実現のため、低コスト造林や素材生産の労働生産性の向上等により、民有林・国有林共通の課題であるコスト縮減に取り組みます。また、

その成果を民有林の関係者に水平展開し、地域振興に貢献します。

※平成二十八年度は現地検討会等を約八十回開催し、延べ二千二百人の参加者のうち、約四分の一が県・市町村職員。

平成二十九年 度は具体的に、

○伐採から地拵え又は植栽までを一体的に行う「伐採・造林一貫作業システム」を、主伐予定箇所の大半（平成二十九年 度主伐予定二十八箇所うち二十六箇所）で実施します。



重機による地拵え

○管内の植付に占めるコンテナ苗の割合は、平成二十八年度の約七割から平成二十九年 度は約九割（約四十二万本）に増加させる予定です。

○「生産性向上実現プログラム」では、全署等にモデル事業地を設定し（四県



容器から抜かれたコンテナ苗

左からヒノキ (300cc)、カラマツ (150cc)、カラマツ (300cc)

で十一箇所）、作業日報分析等によるボトルネックを把握して、機械と人員配置の最適化を行うとともに、新たに推奨事例を事業体へ普及する取組を進めます。

3 ニホンジカ被害対策の推進

昨年度実施した「中央アルプス周辺におけるニホンジカの行動把握調査」によれば、自動撮影カメラを設置した九十九台のうち六十一台でニホンジカの生息が確認されるとともに、当地域のニホンジカは広域の季節移動は行わず、特定の小流域及びその周辺に定着している傾向が見られました。

この調査結果を踏まえ、平成二十九年 度は中央アルプス周辺に定着したニホンジカを捕獲するため、

○生息が確認された箇所に、くくりワナ又は囲いワナを重点的に設置

(3) 平成29年5月



ニホンジカ

○自動撮影カメラの画像データ、設置箇所の位置情報等を地元市町村や猟友会に提供

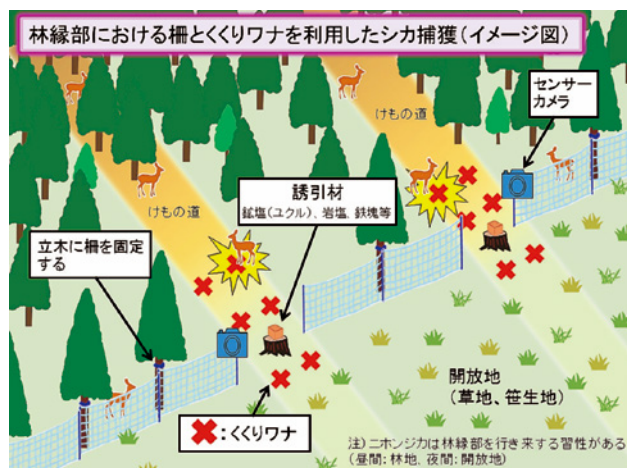
○自動撮影カメラを対前年度約二十台増の約百二十台を設置※し、生息情報量を拡大

の実施等、県や市町村など関係機関（中央アルプス野生動物対策協議会）と連携して対策を強化します。

※局管内の四県では対前年度約百台増の約四百二十台を設置予定

また従来から被害の多い八ヶ岳周辺、南アルプス周辺、美ヶ原周辺等の各地域では、引き続き委託等による個体数調整を実施するほか、新たに、

○開放地と林内を行き来するニホンジカの習性を利用し、林縁部に設置する誘導柵、誘引材及びくくりワナによる捕獲



○クマの錯誤捕獲防止も期待できる、給餌と捕獲を兼ね備えた 誘引式首用くくりワナの設置

○ニホンジカ防護柵や誘導柵の巡回点検へのドローンの活用にも取り組み、地元市町村等による協議会と連携して対策を進めます。

4 木材の安定供給と山元への還元

多様な森林への誘導を行う施業など、適切な森林整備の結果得られる木材については、素材の安定供給システム販売及び民有林との協調出荷を推進し、需要に即した安定供給とカスケード利用を基本とした販売に努めます。

平成二十九年度は具体的に、

○森林資源の充実により今後生産量の増



高国木曾ひのき

加が見込まれる、高齢級人工林材については、森林所有者への還元の増大を図るため、最も単価が高く柱、梁等に使用される製材用丸太（いわゆるA材）の高付加価値化を目指し、民有林や民間の事業者と連携し、「高国（まるこうまるこく）木曾ひのき」などの高齢級の人工林ヒノキの普及定着を図るとともに、新たに、長野県産高齢級・大径カラマツのブランド化に取り組みます。

○これまで林内に残されてきた末木枝条や端材（いわゆるD材）を林業事業者が木質バイオマス発電施設等に対して供給する取組を推進するなど、カスケード利用を基本とした販売を推進します。末木枝条等の活用は、地搾えの



山地災害対応チームのユニホーム

省力化など更新に要するコスト縮減にも大きく貢献するため、この取組を民有林へも普及し、地域振興に貢献します。

5 山地災害対応の能力強化

全国各地において、近年、多くの死者・行方不明者を伴う激甚な山地災害が連続して発生し、人的・物的被害が拡大する傾向にあります。このような状況を踏まえ、中部森林管理局は、山地災害を防止し、被害を最小限にとどめ、地域の安全性を向上させるため、効果的な治山事業の推進、山地災害危険地区の再点検、既存施設の長寿命化対策の推進に取り組みます。

平成二十九年度は具体的に、

○平成二十八年十二月にスタートさせた「山地災害対応能力強化プロジェクト」の取組を強化します。

○このプロジェクトでは、大規模な山地災害が発生した際、これまで行ってきた県や市町村等との合同によるヘリコプターでの広域的な調査や地上調査に加え、国有林の有無にかかわらず、初



植樹祭の開会式

**平成二十九年度
愛知県植樹祭を実施**



「名古屋事務所・愛知所」五月十三日に愛知県阿久比町で、第六十九回愛知県植樹祭が実施されました。

動段階において、森林土木技術者等で編成する「山地災害対応チーム(MD S A T)※/CHUBU エムディーサツト(中部)」を被災自治体に派遣し、技術的な支援・助言を迅速かつ的確に行い、被災地の復旧・復興に貢献できるように、体制を整えます。

名古屋事務所からは金口所長(次長)、愛知森林管理事務所からは織部調整官が出席しました。

主催者である愛知県知事から、「平成三十一年度に愛知県森林公園(尾張旭市)で行われる第七十回全国植樹祭に向けて多様な緑化運動や緑化がさらに進むような気運を高めていきたい」との挨拶がありました。

また、式典の中では全国植樹祭関連イベントとして広報大使委嘱、大会テーマ・マスケットキャラクター作者の表彰式やあいち「言の葉」キャラバンの出発セレモニーも行われました。



FUTURE SEED号
(どんぐり型のポスト)



**第70回全国植樹祭
マスコットキャラクター**
「森ずきんちゃん」

あいち「言の葉」キャラバンとは、FUTURE SEED号(どんぐり型ポスト)が愛知県内の全市町村をキャラバンシメツセージを投函してもらうものです。出発に際して、愛知県知事をはじめ出席者がどんぐり型のポストへ未来の木づかいや森林に対するメッセージを記入した木製のカードを投函し式典は終了しました。



記念植樹終了後の記念写真

式典終了後、出席者による記念植樹が行われ植樹祭が終了しました。愛知県では、第七十回全国植樹祭(平成三十一年度)に向けて、各種緑化イベントが行われる予定となっています。

各地からのたより

木曾ヒノキ

台湾のテレビ番組で紹介へ

「木曾ヒノキ」二月二十日、台湾のテレビ番組収録のため、台湾財団法人公共テレビ文化事業基金会のスタッフや通訳、植物学の教授など五名が木曾森林管理署赤沢自然休養林を訪れ、木曾ヒノキに関する取材を行いました。

世界の自然の生態を紹介する番組「私たちの島」(島は地球を指すとのこと)の制作のため日本を訪れ、日本を代表するヒノキ美林として赤沢が取り上げられることになったものです。

木曾森林管理署からは、三井総括森林整備官ら三人が案内役を務め、木曾ヒノキ林成立の歴史や生態、その利用方法などの説明を行いました。

案内をする過程で植物学の教授から、かつて日本と台湾は一つの地続きであり、台湾と日本のヒノキはそっくりであるが、気候風土の違いで生長の様子が違うとの話や、木曾のヒノキは厳しい自然の中で育つため生長が非常にゆっくりであることに對する素直な驚き、また、木曾五木のヒノキ以外のサワラ、ネズコ、コウヤマキ、アスナロは台湾では希少樹種であるといった発言などがありました。

せっかくの機会であることから、こち



ヒノキに関する著書と共に記念写真

らからも赤沢のヒノキと台湾のヒノキの違いや植生の違い、林業の歴史や施業についての質問を行い、中でも、台湾の木の伐倒技術について、過去にこの木曾谷から四十人の伐倒手が台湾へ行き、現地で伐倒方法を教えたことや、伐倒に使われるノコギリは台湾で改良されて日本に持ち込まれたことなど、林業に関わっていてもなかなか知ることができない、驚くような歴史を知ることができました。

また、今回取材に来られた植物学の教授からは、ヒノキに関する著書（中国語であるため翻訳が必要となりますが）を贈呈いただき、その中には台湾のヒノキ林や昔の施業の様子など興味深い写真が多く掲載されていました。

当日はあいにくの冷たい雨が降る厳し

い天候の中での取材でしたが、日本三大美林の一つである赤沢のヒノキが台湾で紹介されることを大変喜ばしく感じました。



取材風景（赤沢自然休養林内）

なお、今回収録した番組の放送は台湾で九月に予定されており、ユーチューブでも同時に配信されるということです。

最後に、取材に訪れたスタッフからは、台湾の阿里山には樹齢三千年のヒノキが残っているのので、台湾を訪れる機会があれば是非見に来てほしいとの話がありました。

木祖村と二つの協定を

同時に締結

〔木曾署〕三月二十七日、木祖村と木曾

森林管理署は「多様な活動の森における保護・管理・利用に関する協定」及び「国有林に隣接する公共施設の確認に関する協定」の二つの協定を締結しました。

木祖村小木曾国有林内「水木沢天然林」(約八〇畝)は、樹齢三百年を超える木曾ヒノキ等の温帯性針葉樹とブナ等の広葉樹が混交する天然林で、地域における象徴として平成三年に当時の長野宮林局（現中部森林管理局）と木祖村で保存協定が結ばれました。協定締結後これまでの間、区域を回遊できる約四キロの遊歩道を利用した自然探勝や森林浴等の利用のほか、森林の保全・保護を図りつつ地域振興も図ってきました。

保護林制度の見直しにより、平成二十八年度末に郷土の森制度が廃止となったことから、国民参加の森林づくり制度を活用し、木祖村が実施する保護・管理・利用の活動が円滑に実施されることを目的として今般の新たな協定締結となりました。

もう一件は、国有林野に近接する木祖村が管理する公共施設の状況を森林管理署職員が確認し、異変等があった場合は村へ報告する協定も同時に締結しました。これにより、国有林職員は通常業務の遂行時に村が管理する村道、林道等の状況などに気を配りながら確認し報告していくこととしています。

協定締結式典において唐沢木祖村長か

らは、「今後、木祖村は『水木沢天然林』を保護する取組とともに観光面での活用も強めていきたい」「国有林と共存共栄しながら林野行政に積極的に協力していきたい」とそれぞれの協定に対する思いのこもった挨拶をいただきました。



協定締結後の唐沢木祖村長（右側）と新津木曾署長

これまで地域貢献を積極的に行ってきたところですが、本協定締結により、木曾森林管理署として積極的に地域の発展に貢献できるよう木祖村と連携しつつ取り組むこととしています。

高山市、白川村の公共施設等の確認に関する四者協定

〔飛騨署〕四月十七日、飛騨森林管理署において高山市、白川村、飛騨高山森林



右側より、坂本飛騨署長、國島高山市長、成原白川村長、内木飛騨高山森林組合代表理事組合長

組合と当署で公共施設等の確認に関する四者協定を締結しました。
 当協定は、国有林へ行くまでの市・村が管理する林道や水路等の公共施設等を確認し、異常を発見した場合には市村へ情報提供を行うもので、昨年十一月に飛騨市とも締結しており、当署管内のすべての市村と協定に至りました。
 今回の協定では、高山市と白川村に所在する民有林を管轄区域としている飛騨高山森林組合も通常業務の中で情報提供を行うこととなり、中部局管内では初めてとなる協定内容となっております。
 國島高山市長からは「隣接した白川村とは密接な関係であり、一緒に協定を締結できありがたい。森林は地域の財産、遺産であり、我々はこれを受け継いで次



祝辞を述べる新島局長

式典では、前日の降雪で真白になった穂高連峰をバックに、旧安曇村（現松本市）との姉妹都市提携四十五周年を記念して、スイス・グリンデルワルト村の公式訪問団二十六名が出席しヨーデルを披

「中信署」四月二十七日、当署管内の北アルプスの玄関口、上高地の一年の幕開けとなる「第四十九回上高地開山祭」が河童橋のもとで、新島局長や角中信署長も参加し、地元関係者により開催されました。

北アルプスの玄関口 上高地で開山祭

代に伝える責務がある。民有林も国有林もしっかりと守り、活用し、次代に伝える努力を続けるために、関係者と協力するということは心強い」また、成原白川村長からは「公共施設や鳥獣害などの情報、災害情報の提供が迅速になることを期待している。いち早く提供してもらおうことで、地域の安心、安全につながる」との挨拶をいただきました。



乗鞍アルプスホルン愛好会によるホルン演奏

また、乗鞍アルプスホルン愛好会によるホルンの演奏や安全祈願の神事、河童橋上での鏡開きも行われ、観光客や登山客約三千五百人が見守る中、本格的な山岳観光シーズンの到来を祝いました。

上高地は、年間約百五十万人もの人が訪れる国内屈指の山岳リゾートで、大半が国有林であり、標高一、五〇〇以上の高地にありながら、ほぼ平坦な道が続くため、散策路はとも歩きやすく、日帰りの短時間滞在でも、目的を絞れば満足いく時間が過ごせ、誰でも安心して楽しめる素敵な場所です。
 貴重な自然を守りながら、豊かな自然にふれあうことができる「上高地」へ、

行事・会議等の予定

是非、行かれてみてはいかがでしょうか。



大正池から穂高連峰を望む（6月初旬）

- ◎長野県植樹祭 6月3日 長和町
- ◎森林計画等担当者会議 6月5日～6日 中部局
- ◎第1回木曾悠久の森管理委員会 6月14日 中津川市
- ◎第1回木曾悠久の森管理運営委員会 6月15日 東濃署ほか
- ◎造林担当者会議 6月15日～16日 中部局
- ◎地上型森林3次元計測システム講習会 6月19日～20日 木曾署管内
- ◎事業担当課長会議 6月22日～23日 林野庁



「北信森林管理署 野沢森林事務所」

森林官 百瀬 裕章

野沢森林事務所は、長野県の北部、スキー場と温泉で知られる野沢温泉村にあります。

管轄する国有林野は、野沢温泉村と飯山市に所在する約四、五〇〇㍍で、その多くは地域の重要な水源地帯となっています。

管内には、新潟県境「関田山脈」の縦走で知られる「信越トレイル」があり、平成十六年十月、中部局北信署、関東局



国有林を活用した野沢温泉スキー場

上越署、地元NPOとの三者協定により、そのルートが整備され、長野・新潟両県九市町村に跨がる総延長八〇キロメートルの稜線を歩きながら、森の中の動植物との出会いや、豊かな自然を肌で感じることでできるトレッキングを目的とした登山道として、春から秋にかけて、多くの登山者に利用されています。



信越トレイルの風景

また、巨木百選にも選定されたブナの巨木「森太郎」や標高一、六五〇㍍の毛無山山麓に広がる「上ノ平高原のブナ原生林」は、神秘的な景観で訪れる人々を魅了します。



ブナの巨木「森太郎」

一方、国有林野を活用した野沢温泉スキー場や戸狩温泉スキー場は、良質な雪が好評で、毎年多くのスキーヤーが訪れるとともに、村内十三箇所「共同浴場」は、一〇〇㍍天然温泉の掛流しが特徴で、年間を通して、多くの観光客に人気があります。

野沢温泉村では、日本三大火祭りの一つに数えられている重要無形民俗文化財「道祖神祭り」が毎年一月十五日に開催されます。



協定材による「道祖神祭り」の神殿



「道祖神祭り」クライマックス

この祭りは、その地区の代表「野沢組」惣代が総元締となり、昔からの伝統に則り行われるもので、祭当日の夕方に、「火元の家」から種火を戴き、松明の火が社殿に移され、村の男が火付け役、厄年の男が火消し役となり、一時間



北信署と「野沢組」とで協定されている「道祖神祭りの森」

あまり激しい火の攻防戦が繰り広げられますが、この道祖神祭りの社殿の一部に使われるブナ材が北信署と「野沢組」との協定により供給されており、毎年、厄年の男の数だけ提供しています。

このように、野沢森林事務所管内は、豪雪地域でありながらも、古くから国有林と地域の人たちが共に歩んできた証として、現在も、国有林野を活用した地域の産業や伝統行事が継承されています。

毎年、五月中旬には、残雪も少なくなり、本格的な事業最盛期を迎えることから、主に一般者の入込みのある箇所を中心に、雪融け後の現地に危険木や危険箇所がないか、適切に利用されているかなど、適切な国有林の管理業務が重要な任務となっています。

今年度も地元の要望に耳を傾け、地域と国有林のよりよい関係を構築できるように、安全第一を念頭に森林官業務を遂行したいと考えています。

皆さん、四季を通して楽しめる当事務所管内へ、是非お出掛けください。



「南木曾支署」南木曾町は、長野県の南西部・木曾谷の南端に位置します。面積の九割は森林で占められ、そのうち約七〇％は国有林です。町は古くから木材生産・加工業を基幹産業としてきました。近年は、国選定重要伝統的建造物群保存地区の妻籠宿や国の近代化遺産に指定された桃介橋をはじめとする恵まれた文化遺産と新たに開発された温泉の活用による観光産業が町の主要産業となっています。

今回は、南木曾町にある自慢の滝をご紹介します。

柿其溪谷

柿其溪谷は数ある木曾路の溪谷の中でも特に美しいと言われ、吊橋より上流八キロメートルにわたって深い谷を埋めた巨大な花崗岩が美しい滝や瀬や淵を織りなす景勝地です。春にはツツジ、シヤクナゲ、秋には紅葉が旅人の目を楽しませます。一般には十二兼駅から自然歩道を通って、牛ヶ滝まで四・五キロメートル、さらに奥へは林道を歩いて行きます。特に、恋路のつり

橋から牛ヶ滝までの三〇〇メートルの遊歩道がお勧めです。花崗岩をくりぬいて柿其川本流が落下する牛ヶ滝の眺めは壮観です。牛ヶ滝からさらに林道を徒歩四十分のところに、展望台からの眺めが爽快な霧ヶ滝があります。柿其溪谷に行く途中には、桃介橋・読書発電所とともに国の重要文化財に指定されている柿其水路橋があります。現存する戦前の水路橋の中では最大級です。

◆所在地

長野県木曾郡南木曾町読書本谷

◆アクセス方法

公共交通機関



霧ヶ滝



牛ヶ滝



不動滝



天河滝

・JR中央本線十二兼駅下車
約徒歩一時間
自家用車
・中央自動車道中津川IC
国道十九号約四十五分
◆お問い合わせ
南木曾町観光協会
TEL〇二六四―五七―二〇〇一
田立の滝

うるう滝、らせん滝、洗心滝、霧ヶ滝、天河滝、不動滝、そうめん滝等、大滝川の峡谷にかかる無数の瀑布を総称して「田立の滝」と呼んでいます。昭和四十九年に長野県の名勝に指定されてお

り、また、日本の滝百選にも認定されています。壮大な滝の流れは周りの緑ともかね合い、神秘的で感動的です。特に主瀑である天河滝の高さ四〇メートルの花崗岩壁のてっぺんから大滝川本流が崩れるように落ちる様はまさに圧巻で、かつて里人たちがこの天河滝を神聖視し、雨乞い神事を奉るとき以外は登らなかつたというのにも頷けます。散策や森林浴を楽しめます。

◆所在地

長野県木曾郡南木曾町田立

◆アクセス方法

公共交通機関

・JR中央本線田立駅下車

約徒歩一時間三十分

自家用車

・中央自動車道中津川IC

国道十九号約四十分

◆お問い合わせ

南木曾町観光協会

TEL〇二六四―五七―二〇〇一